

## ～私たちの抱える問題～

皆さん、こんにちは！今月もカンボジアの農場から現在の様子をお知らせさせていただこうと思います。

未だこちらは雨季です。以前にもお知らせさせていただいたように今年是非常に雨の少ない雨季となっていました。しかし、その雨が9月後半からよく降るようになり、10月にもなると毎夕方、もしくは毎夜激しい雨が大きな音の雷とともに降るといふ具合です。周囲の川や水路は、増水し、行き場のなくなった水はすぐ脇にある道路や水田にまで影響を及ぼすほどです。もちろん作物や周囲の木々にとってはうれしい雨なのですが、私たちの場合には大きな問題となってしまったのです。なぜならば水田が一夜のうちにして川の一部になってしまったからです。子どもたちの植えてくれた稲がまだ実を付ける前だというのに水田ごと水没してしまったのです。

稲は強い作物なので、少しの間は水の中で我慢してくれているとは思いますが、早く水が引いてくれることを願うことしか今の私たちにはできません。

こうなってみると、人間がいかにながままであることを知らされます。雨が少なくなると「いつになったら雨が降るのだろう!？」と言い、実際に雨が多くなって見ると今度「いつになったら晴れるのだろう!？」と考えてしまうからです。

作物の試験栽培も引き続き行っています。しかし残念ながらこちらでも問題を抱えた状態となっています。ダイズの生育が大きくばらついていること、周囲の農家さんのようにキャベツやキュウリなどを直接畑に播いてみましたが、なかなか芽が出てくれないことなどです。そのようなことから、

1. 水稲をはじめ、作物を栽培できるような土を作ること。
2. 雨季や乾季に左右されない灌漑設備が必要なこと。

この2つが特に大きな問題です。これは農業を行う際には一番大切なことであり、一番時間のかかることでもあるでしょう。

すこしでも早く改善策を見つけようと小さい面積ではありますが、土に関する試験を始めました。それは、水が流れないように粘土を入れたところと入れないところ、EMを使用して作った「ボカシ」を多く入れたところと規定量入れたところとの差を比べてみているところです。今の段階では粘土を入れたところと、「ボカシ」を多く入れたところの具合が良いようです。

一つだけうれしいことがありました。それは6月に種をまき成長を続けていたスイカだけは実を結び、なんと収穫に至りました。数は少ないのですが、この農場で初めての収穫です。外側まで真っ赤になり、みずみずしく甘いスイカでした。たった数個のスイカですが、初めての収穫と言うこともありこれほどうれしい感じたことはありません。



一夜にして川となってしまった水田(上)。その水の量は、なんと構の半分まで水で浸ってしまう(下)。



**たった数個であったが、初めての収穫。お客様や管理人さんの子どもたちにも喜んでもらう。**



**最後まで熱心に説明を聞いてくださったワタミインターナショナルの方々**

さて、今月はワタミの本社とワタミインターナショナルの皆様にご来場いただきました。

孤児院で1泊された後でお疲れであったにもかかわらず、そして未だ問題を抱える農場を見学していただいたというのに、私たちの説明を最後まで熱心に聞いていられました。ワタミインターナショナルの方々からは多くの質問をいただき、遠い地ながらも私たちのことを真剣に考えていただいていると感じました。支援者の方々にも初めて収穫したスイカを一緒に食べていただき、「おいしい！」の一言。この一言が作っている者にとっては何物にも変えがたい代価となりました。

さらに今月に入り、SAJに携わっていただいているたくさんの方の知恵とお力をお借りしながら2012年までの予算を組みなおしています。「なぜ今頃？」と感じた方もいらっしゃるかと思いますが、ご存知のように私たちは皆様方からのご支援の下、活動させていただいています。私たちの農業は日本・カンボジア両国の人々に受け入れられる農業でなければなりません。そのようなことをもう1度考え出来る限りのことをしたいと考えたからです。

今月中旬にはタイ王国へ出張もさせていただきました。私たちのモデルとなっている自然農法研究開発センターの農場をもう1度視察させていただくと同時に、今私たちの抱えている問題の糸口をEM研究機構の方や視察させていただいたセンターの方

にもご相談させていただき解決方法を見出すためです。

視察させていただいたセンターの稲はEMを使っているせいなのでしょう、生育が旺盛で穂もたわわに実っていました。それを見た瞬間「私たちの農場もこうしたい！」と強く感じました。

私たちの抱えている問題に関しても、EM研究機構からの協力の下、解決への糸口が見つかりそうです。

カンボジアに来て後数ヶ月で速くも1年になろうとしています。その間にはトラクターが畑で動かなくなったり、孤児院への薪を盗まれたこともありました。そして抱えている水稻の問題もどうにかして栽培できるようにしなければなりません。

未だ問題も多いのですが、その分「これからだ！」と思っていますので、今後も変わらぬご支援をお願いいたします。

**畑が思った以上に柔らかく、トラクターでさえも立ち往生してしまう。**



## 編集後記

あるお客様をご案内させていただいた際に、未だ問題を解決することができず、殺風景な農場であったにもかかわらず、そのお客様は終始「こんなにも夢のある仕事はほかにないですね。素晴らしい！」と感嘆され帰っていかれました。このとき、私たちの行っていることの責任と重大さに改めて気づかされました。気の引き締まる瞬間でした。(飯島)